

普通科 人文社会 125班

授業形態による理解度の差

班員 藤川栞 木下悠衣 伊藤丈琉 指導者 甲斐由美桂先生
コーチ 上ノ原一道様



研究の動機

将来、教師になったときに、どのような提示教材を用いて授業を行うかの参考にしたいと考えたため。

研究の目的

提示教材の種類が生徒に与える理解度の違いを解明すること。また、それぞれの提示教材の利点を活かした授業場面を考えること。

研究方法

①授業、小テスト作成

②授業

長さ:5～10分程度。

(当初は時間が長すぎて被験者が集まらなかったなのでこの時間に設定。)

被験者数:プロジェクター27人 黒板27人(延高生1、2年)

テーマ:フルフィルメントサービス(物流)

→事例を2つ紹介

小テスト:記述一問

→授業の事例をもとに定義を答える

③分析

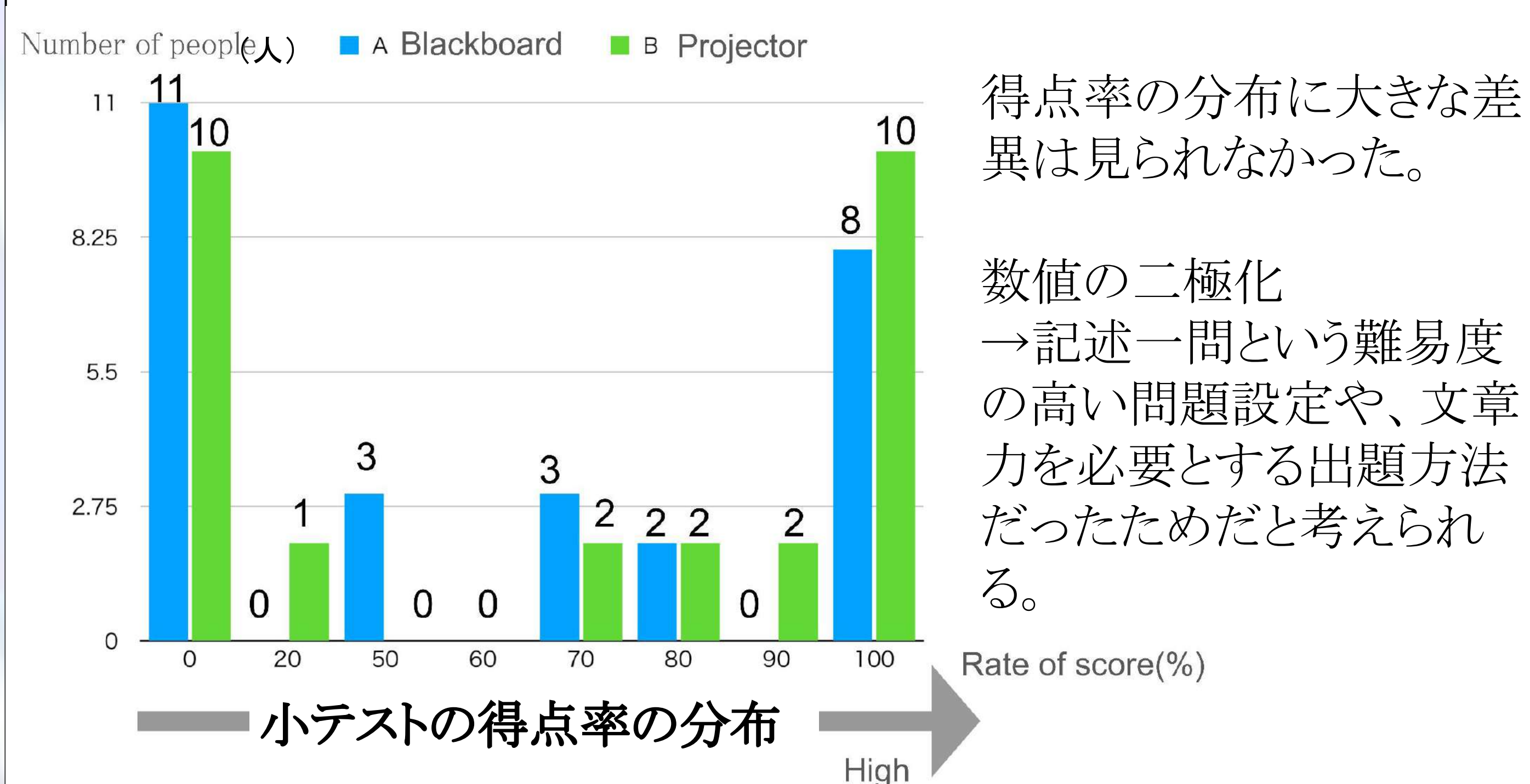
④考察

インタビュー、アンケートももとに考察。



結果

「フルフィルメントサービス」の事例2つを授業で紹介し、その授業をもとに、小テストで定義を考えて答えてもらった。その得点率の分布が以下の通りになった。



アンケートの結果

Q.どちらが普段理解しやすいと感じるか。またその理由

黒板

- ・進みがゆっくり
- ・全ての流れを見返せる
- ・反射で薄いことがない

プロジェクター

- ・簡潔である
- ・黒板で書くのが難しいものがわかりやすい
- ・授業がスムーズ

先生方へのインタビューの結果

Q.黒板、プロジェクターのそれぞれの使用目的

黒板

- ・生徒の意見を反映させたい
- ・強調したい
- ・情報を追加したい

プロジェクター

- ・決まった答えを表示したいとき
- ・早く進めたいとき
- ・図、写真を提示するとき

考察

結果より、これらのツールを複合的にうまく使用することがより理解度に影響を与えると考えられる。

黒板をおすすめする場面

- ・基礎的な内容を黒板で書くとき
- ・生徒の意見を書くとき
- ・最重要な部分を説明するとき
- ・過程を説明したいとき
- ・板書を写す余裕を持たせたいとき
- ・最後にまとめて振り返りたいとき

プロジェクターをおすすめする場面

- ・決まった答えを素早く表示するとき
- ・視覚的効果が必要なとき
- ・先生が字を書くのが苦手なとき
- ・映像で伝えたいとき
- ・各クラスで平等性を持たせたいとき
- ・時間を節約したいとき

本当に2つのツールに差がないかどうか、授業時間、被験者数を改善してさらに実験する必要がある。またこれをもとに私たちは、将来自分の目的と生徒の意見を照らし合わせながら授業を作っていきたいと考えている。

謝辞

これまで支えてくださった上ノ原様、由美桂先生、お忙しい中たくさんのアドバイスをありがとうございました。また、授業を受けてくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。

参考文献

岡崎泰久 吉川厚 佐賀大学理工学部 東京公共大学大学院総合理工学研究科(出版年2019年)
『板書形式とスライド形式の教材提示比較実験』
<https://resarchmap.jp>attachment-file>